

# 動画サイトニュースを使った授業の再考

## —ニュースで学ぶ選択科目授業の実践報告—

カーロリ・ガーシュパール・カルヴィン派大学  
人文学部東洋言語学科 日本語専攻  
渡辺 薫

### 1. はじめに

近年、日本語教育においても、学習者自身がさまざまなインターネット上のリソース、コンテンツ、あるいはアプリを利用し、日常生活の中にさまざまな学習素材を取り入れている様子が見られる。本稿の報告者は梅田（2005）と同様、それらの日本語学習の最終目的としては、日本語能力を高めるのではなく、それを手段として有効に使うことであると考えている。

報告者は、本大学の学部学科でそのリソースとして「動画サイトニュース」を使った選択科目を設けた。ニュースを利用するのは、日本の「今」そして「旬」を授業に取り込むことで、自己の実生活と世界を結びつけながら日本語学習をすすめてほしいと考えたからである。つまり、「身の回りにあるニュース」が仲介者となって、学習者がそれに対する自分の見解、意見を持ち、他者と共有あるいは討論することで、他者とのコミュニケーションや自分自身の考えを深めることを望んでいるのである。

本稿では、まず授業の実践について述べ、次に授業を通して出てきた教師の迷いについて記す。さらに、科目を選択した学生からの聞き取り調査から見えてきた課題と、それに対する改善案を提案する。

### 2. 授業の詳細について

#### 2.1. 授業の概要

「ニュースで学ぶ日本語(Japán nyelv a médiában)」は、本学部学科の自由選択科目として2016年9月にスタートした。本稿では、そのうちの第2回目の開講（2017年2月から5月までの春学期）での取り組みを報告する。学習者によるミニ発表会2回を含め、90分の授業が全部で11回行われた。登録者数は9名であり、学習者がニュースについてディスカッションをすすめるには理想的な人数であったと思われる。

#### 2.2. 授業の目標

本科目では、ニュースを理解するという小目標と、ニュースをツールとして自己の学習スタイルを再考し、他者と関わるという最終目標を設定した。

小目標は次の3項目である。

- ① アナウンサーが原稿を読む速度、一般の日本人の話し方のバリエーションやイントネーション、速度に慣れる。
- ② ニュースの中で使われている語彙や表現を理解し、それを実際に使ってみる。
- ③ 「現在進行形」の日本を知り、それに関して考えや意見を持つ。

報告者自身、外国語を勉強する際にはもちろん、目標言語の国の情勢などに興味を持っていた。

しかしニュースと言えば、「速い」「難しい言葉を使う」というイメージが先行し、どのように利用すべきか、学習をすすめるべきか迷ったという経験がある。本科目では、はじめからすべての言葉を正確に理解するのではなく、キーワードを理解し、要点や問題点を把握することを最優先し、クラスメートの援助や意見を得ながら、自分の日本語学習の中にニュースを取り入れていくことを目指した。その上で、次の最終目標を設定した。

- ① 興味のある関連ニュースを自分で探し、学習を深める能力を身につける。
- ② ニュースに関する自分の意見を他者と共有し、自己の考えや他者とのコミュニケーションを深める。

### 2.3. 授業の流れ

授業は大まかに5つの段階を設定してすすめた。次の2.3.1 - 2.3.5の項目でその詳細を記す。

#### 2.3.1. 小テスト

小テストは、前回のニュースの語彙や表現、またはニュースの内容理解を確認するために行った。読み書きではなく、理解・使用を確認することが目的であるため、語彙の選択を問う小テストが主であった。

#### 2.3.2. 学生によるニュースの発表

次の段階では、学生による身の回り（主にハンガリー）のニュースの発表が行われた。これは、身の回りのニュースに関心を持ち、分かりやすく他者に伝えると共に、日本のニュースとの比較を通して、自分のまわりのニュースを見つめ直し、それに対して自分の視点を説明できることを目指している。ここでは、自分が難しいと思う言葉や、辞書で初めて見た言葉などを使わずに、なるべく自分の言葉で話すことをすすめた。

#### 2.3.3. 日本のニュースの視聴・理解

これは、この授業のメインとなる項目である。なるべく一週間以内の新鮮なニュースを使用することを心がけた。使用したウェブサイトは次のとおりである。

「テレ朝ニュース」 [www.news.tv.asahi.co.jp](http://www.news.tv.asahi.co.jp)

「NHK News Web Easy」 [www.nhk.or.jp/news/easy/](http://www.nhk.or.jp/news/easy/)

「Yahoo!ニュース」 <http://headlines.yahoo.co.jp/videonews/>

この中から教師は毎週、3分から6分程度のニュースを選び提示した。提示の仕方としては、まずは、クラス全体にパワーポイントでタイトルのみ、あるいはキーワードのみを示し、その語彙について何を知っているかについてペアあるいはグループで話し合い、その日のニュースの内容の予測を立ててもらった。ここでは、一方的に教師が語彙を説明したり、あらかじめ出来た語彙表を配布するのではなく、学習者自身がお互いに知っている知識や情報を交換し合い、新しい語彙を調べるためのツール（オンライン辞書など）を使ってキーワードの意味を話し合う場を設けた。こうすることで、初めて聞くニュースであっても、その内容を理解するための心構えができ、ニュースの要点を把握する手助けとなると考えた。

タイトルからニュースの内容を予測した上で、すぐニュースを聞くのではなく、教師からの聞き取りのポイントを提示した。これもまた、新しい語彙や表現が出てきたとしても、ニュースの内容

や要点を効率的に理解するためである。ニュースを通して聞き取り、あらかじめ用意しておいた聞き取りのポイントを再びペアやグループ活動で確認する作業を通して、内容理解を強化した。ここまでは内容理解に重点を置いた活動である。

次に、語彙や表現に注目を向けるため、内容ごとに区切って視聴した。これは、アナウンサーが記事を読み上げる部分、一般の人々へのインタビュー場面、ナレーターによる解説などに分けることができる。ここで出てきた新しい表現や語彙を使って、身近なことを説明する文を作ってみたり、関連語を探したりする活動を行った。

#### 2.3.4. 情報の補足

さらに、情報の補足として、同じ内容のニュースを他のテレビ局がどのように伝えているのか、それをどこまで聞き取り理解できるのかを学習者自身が把握するために、同じ内容の他局のニュースを通して視聴した。日本国内の政治情勢や、古くからの慣習など、解説が必要だと思われる場面には教師による解説を行った。教師による解説に関しては、本稿の次の項目（3. 教師の迷い）でまた詳しく述べる。

#### 2.3.5. ディスカッション

最後に、学習者による意見の交換、感想を述べ合う時間を設けた。

### 2.4. 授業のデザイン

ここでは、教師がニュース選択の際に意識したことや、学習者の「知りたい」気持ちを引き出すための工夫を記したい。

まずは、テーマ選択についてである。ニュースには様々なテーマがあり、ウェブサイト上でも、社会・経済・政治・国際など様々なジャンルに分けられており、ここからどのようなニュースを授業で取り扱うのかは悩むところである。つまり、教師が興味あるニュースや扱いやすいトピック、面白くて盛り上がりそうだと思うトピック（例えば動物のテーマなど一過性のもの、流行、視聴率がとれるような刺激的な内容）に偏っていないか、教師の主観ばかりが反映されていないのか、ということ考えた。その結果、次のような解決を試みた。それは、その週に放送されたニュースに関するいくつかのテーマ（ニュースのタイトル）を提示し、学生が本当に知りたいと思うニュースを学生自身に選択させるということである。例えば、2017年3月のある週には、次のようなニュースを授業前に準備した。タイトルは以下のとおりである。

『東日本大震災から6年 被災地で鎮魂の祈り』（社会）

『北ミサイル 最も近い場所に落下』（国際）

『サウジアラビア国王が来日』（国際）

『DeNA 社長大幅減給 情報サイトずさん管理』（経済）

先ほど 2.3.3. で述べたように、まずは学習者自身がこれらのタイトルからどのようなニュースであるか予測を立て、知っていることについて情報交換を行った。その上で、授業の中ではどのニュ

ースについてより詳しく知りたいのかを学習者自身にも選んでもらった。これは、われわれも普段、ネット上でニュース映像を見たり、新聞を読んだりするときにどの部分から始めるのかということを決めるときに行っている作業である。教師が一方的にひとつのテーマを与えるのではなく、授業でもこのような選択肢を与えることで、学習者が個別に学習をすすめるときのヒントになると考えた。ただ、この作業は、教師がスクリプトを複数準備したり、それぞれのニュースに関する予備知識を蓄えておかなければならないという点では、教師にとってはより負担になる。これは後の「改善案」の部分で詳しく検討していきたい。しかし一方で、学生一人一人の興味関心に対応できるという点で、学習意欲を増すという利点を持つ。複数の中から選択させる際にも、「今起きていることの意味を考えさせる」という最終目標を意識した。

### 3. 教師の迷い

これらの授業実践を通して、教師（報告者）の迷いも浮き彫りになった。それは、次の3点に要約される。

- ①小テストは必要なのか。
- ②ニュースの「解説」授業になってはいないか。
- ③この授業が終わった後、最終目標にたどり着くことができるのだろうか。

「最終目標」というのは、先に述べたように、学生が自分で学習スタイルの中にニュースを取り入れ、自分の見解を持ち、それを他者とのコミュニケーションツールとして利用するというのである。

これらのことを確認するために、授業を終え成績を出した後に、学習者に対する聞き取り調査を行った。それについて、次の項目で述べていきたい。

### 4. 学生からのフィードバック

この授業には9名の受講者（1年生中上級学習者5名、3年生4名）が参加していたが、聞き取り調査は夏休み明け（2017年9月）に行ったために3年生は卒業しており、当時1年生であった受講生5名より聞き取り調査を行うことができた。

質問項目は以下の4点である。

- ①この授業を選択した理由を教えてください。
- ② ①の目的を達成するために、自分で行ったことを教えてください。
- ③小テストは必要だと思いますか。
- ④授業終了後、自分でニュースを使った学習を続けていますか。

口頭で行った15分程度のインタビューから、次のようなことが分かった。

#### 4.1. 授業を選択した理由、学習者の目標について

この授業を選択した学生5名はすべて、この授業を受ける前には日本語でニュースを見たことがないと答えた。やはり、生のニュースを見るのは難しいという抵抗感があったようである。この科目を受講することにより、聞き取り能力の向上、つまり、ニュースで話される日本語の自然なスピ

一に慣れたい、さらにその中に出てくる語彙を学びたいというのが、全員の共通の目的であった。そのほかには次のような回答があった。

- ・上級レベルの実践的な授業を受けたい。(大学にはそのようなレベルの授業が少ないから)
- ・「日本人にとって」どんなニュースが大切なのかが知りたい。
- ・「日本語能力試験」に役立つ勉強がしたい。

#### 4.2. 目的を達成するために学習者がとった行動について

学習者は、上に挙げた目標を達成するために、5名全員が次のような学習スタイルを確立していた。

- ・授業で扱ったニュースを家で何度も聞いた。
- ・小テストのために勉強した。(漢字練習、語彙を詳しく調べるなど)

#### 4.3. 小テストの必要性について

5名全員が「小テストは必要である」と答えた。理由としては次のような項目が挙げられた。

- ・小テストがないと、勉強のモチベーションがあがらない。
- ・小テストがあると、意識的に言葉を覚える努力ができるし、ニュースの内容にもより集中できる。
- ・ニュースの授業であるかどうかに関係なく、他の授業でも応用できる。

#### 4.4. 授業終了後の学習スタイルについて

最後に、学期終了後、ニュースを使った学習を家でも続けているかを訪ねた。その結果、5名中3名が続けていると答えた。

- ・「面白いニュースを聞いたとき、仕事の合間に自分でそのニュースを探し(日本語で)、動画ニュースを見るようになった。」
- ・「夏休み、日本で毎日テレビニュースを見た。スピードについていけたし、語彙の理解度が上がったという達成感があった。」
- ・「授業後もよくニュースを見ている。」

一方で、大学の授業が忙しくてなかなか家でニュースを見る時間を取れないという回答が2名から得られた。

- ・「他の授業が忙しくて、日本のニュースを見ることはない。」
- ・「今はニュースを見る時間がなかなか取れないけど、1学期の忙しさに慣れてきたら、再びNHKラジオを利用してニュースを使った勉強を続けたい。」

5名全員から「ニュースを見ることに対する抵抗がなくなった」という回答が得られたのは一つの成果であったと考えている。

## 5. 課題と改善案

学生への聞き取り調査の結果、以下3点の課題が浮かび上がってきた。

- ① 最終目標はまだ達成されていない。
- ② 授業で時間をとっても、ディスカッションにつなげにくい。

### ③ 解説の多い授業になっている。

まず、最終目標についてである。これは5つ目の質問で得られた回答からも分かるように、日々の授業に追われる学生が、自主的な学習の中にニュースを継続して取り入れていくのは時間的に難しいということである。学習者はすべて、小テストのための勉強はするが、テーマを深めるために関連ニュースを探したりする行動、学習者同士がそれについて話し合うという行動が見られなかった。また、授業の中では新しいニュースを理解し、消化することで精一杯であり、時間をとってもディスカッションにはつなげにくいようである。また、時間をはかったことはないのだが、教師の発話「解説」が多かったのではないかという反省がある。これはインタビューの中で一人の学習者が「教師が難しい言葉や概念を簡単に説明してくれたのでよかった」と述べたことから分かるが、これは裏を返せば、先回りして解説を与えることで、そこで学習をストップさせてしまうということの意味しているのではないだろうか。また、先の「授業のデザイン」で触れたように、複数のトピックを用意し学習者にテーマを選ばせる場合、「解説」を準備する教師の負担はかなり大きくなる。

これについては、次のような改善の試みを考えている。それは、ニュースを視聴した後、ニュースについて意見を交換することに加えて、そのニュースについて疑問に思ったこと、もっと調べたいと思ったことについてグループで話し合わせるという活動を取り入れることである。つまり、教師が「解説」「補足」という形で授業中に情報を与えるのではなく、学習者自身に疑問を提示させ、次の時間でその答えをクラス全体で共有し、それによってテーマに関するディスカッションを活発にさせることができるのではないだろうか。

教師がある程度テーマを選択し、さらに日本社会のニュースであることから、教師が背景知識を学生よりも多く持っている場合が多い。しかし、学生が自分で新しいことに興味を持ち、その学習を促進するために、そしてそれをツールとして他者とのコミュニケーションを深めていくために、以上で述べたような授業改善が必要であると考えている。

#### 参考文献・資料

梅田康子(2005)「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割」

愛知大学 言語と文化 No.12

高橋亜紀子 (2008)「自立的な学習を促す授業のデザインと教師の役割」

日本語教育世界大会予稿集 3 p.158-p.161

村上吉文 (2007)「ネットのニュース動画を使った授業の一例」『むらログ日本語教師の仕事術』

<http://mongolia.seesaa.net/article/61064340.html>